

令和6年度 学校経営計画

1 学校教育目標

- (1) 伝統を受け継ぎ、新しい未来をつくりだす創造力とたくましい実践力を培う。(創造)
- (2) 個性の伸長に努め、道義と勤労を尊ぶ自他協調の精神を養う。(協調)
- (3) 知性を磨き、情操を養い、身体を鍛えて、社会に貢献する健全な国民を育成する。(錬磨)

2 学校の特徴

本校は、普通科、生活文化科の全日制2学科からなる総合制高校であり、それぞれの科の特色を十分発揮できるよう配慮しながら教育活動の実践を行っている。

普通科では、生徒各々が目的意識をもって、自らの能力・適性を見つけ、主体的に進路選択ができるように、1年次では基礎学力の充実を図るとともに、習熟度別学習を英語と数学で実施し、2・3年次では適性・進路希望に応じた科目選択を行っている。

生活文化科では、食物や被服、保育、福祉などの専門科目の学習を通じて豊かな感性やたくましい行動力を育むことに力を注いでいる。また、学習活動で習得した知識の定着と技術の向上を図るため、各種検定試験に挑戦させ、大きな成果を残してきている。

さらに、特別活動を活発にし、生徒の実践的活動を通じて協調性の育成、自主性の高揚を目指しながら、保健・安全に関する指導の充実を図り、生徒が身体の錬磨に努め、健康な心身を育成するように支援している。

3 学校の現状と課題

社会環境の変化に伴う価値観の多様化等、高校教育を取りまく諸条件の変化は、本校に入学してくる生徒にも影響を及ぼしている。

本校の生徒は概して温和で純朴であるが、その反面、積極性や意欲にやや欠けるとともに、規律ある生活態度に苦慮している生徒も見受けられる。最近では、心身に悩みをもつ生徒の増加、過保護による自立心・忍耐力の欠如がみられ、高校生活の目標があいまいなまま入学してくる生徒もいる。これらの生徒は、学校生活全般を通じて無気力、無関心になりがちで、学校生活にもなじまず、生活指導上の今日的な問題を引き起こしやすい傾向にある。さらに、発達障害などの特別支援を要する生徒への対応が必要となっている。

このような本校の実情から、基本的な生活態度の育成及び基礎学力の定着を図るとともに、個々の生徒の能力・適性、多様な進路希望に応じ、多面的に生徒の諸活動を生かす場を設定し、これを通じて学校生活に魅力と活力をもたせるよう創意工夫をしていく必要がある。

さらに、立山区域唯一の高等学校として地域から期待されていることもあり、ふるさとを愛する心を育て、地域との連携を大いに深め、地域社会に貢献していくことが肝要である。